

令和2年5月13日

令和2年度 東京都立八潮高等学校全日制課程 学校経営計画  
—自らの生き方在り方を自律的に考えられる生徒の育成を目指して—

校長 鶴田 秀樹

## 0 教育目標

- 自主性ある個性豊かな人間になろう。
- 礼儀を重んじ、公共のものを大切にす人間になろう。
- 知性を磨き、深く考える人間になろう。
- 心身を鍛え、強く明るい人間になろう。
- 責任を重んじ、信頼される人間になろう。

## 1 目指す学校

混乱と不安そして焦燥の中、令和2年度が幕を開けた。かつて誰も経験したことのない災禍にあって、普段どおりの学校の状態に近づけるべく、どうやって学校を再開していくのか、生徒や教職員の心の状態をどう安寧なものとしていくのか、そして、遅れてしまった授業の機会をどう補填していくのか、そこからのスタートとなってしまった。既に、学校再開が一月遅れ、しかも大切な年度当初の遅滞にあたることとなった以上、例年どおりの学校経営は難しい。限られた時間と状況の中で、生徒や教職員の健康を担保しつつ、全教職員でこの局面を乗り越えていきたい。

一方で、新学習指導要領に基づく教育課程の全面実施が近づいてきている。中長期的な視野も忘れることなく、育てたい生徒の姿を鮮明にして、育つ生徒の姿をすべての教職員で体感し喜び合えるような教育活動に努めたい。

昨年度、本校では新しい教育課程におけるグランドデザインを決定した。グランドデザインは、育成したい生徒の姿を中長期的に示した指標である。このグランドデザインの趣旨である、自らの幸福と社会の幸福の実現に向けて、主体的に考え行動できる人間の育成を目指した教育を実践するための具体的な教育課程の決定と実施を主軸とした学校経営を継続していく。その中核となるキャリア教育の早期実施を目指していきたい。また、自らの生き方や在り方を決していくためには、自律的な思考と行動をとることができる生徒を育てなければならない。そこで、以下の5点を「目指す学校」として掲げたい。

- (1) 自己の幸福を願い、自己と社会との関わりを模索し、幸福な社会の実現を願う生徒を育成する学校

- (2) 人生を力強く切り拓き、自己実現を意欲的に図ろうとする意志を持つ生徒を育てる学校
- (3) 望ましい人生観に立ち、自立的に生きる生徒を育成する学校
- (4) 社会の課題を自らの課題として解決を図ろうとする、社会への参画意識の高い生徒を育成する学校
- (5) 総ての教職員が力を合わせて、生徒の育成に邁進する学校

キャリア教育を教育活動の中軸とし、その完成形を期して(1)及び(2)は昨年度と同様とした。また、昨年度は「(3)望ましい規範意識を持つ生徒を育成する学校」と定めたが、望ましいキャリア観の育成に望ましい規範意識は含まれると考え、(3)は上記のとおり改めた。さらに、昨年度は「地域に愛され地域社会と共に歩む学校」と定めたが、より高次の意識を醸成するために(4)を設けた。

## 2 中期的目標と方策

- (1) 入学時から卒業に至る3か年にわたる意図的・体系的なキャリア教育の推進を行う。(進路指導)  
特別活動に留まらず、全教科・科目、特別活動、総合的な探求の時間など総ての教育活動が有機的に連動するキャリア教育に努める。
- (2) 自ら学び、自ら向上しようとする学習習慣の定着を期した指導を実践する。(学習指導)
- (3) 基礎・基本の学力の向上を目指した学習指導を実践する。(学習指導)
- (4) 生徒自らが学力を向上させようとする意欲を高める指導に努め、向上意欲の高い生徒に向けては、さらに高次の学習指導に努める。(学習指導)
- (5) 自律的な生活習慣を身に付け、社会的な自立を目指した生活指導に努める。(生活指導)
- (6) 基本的生活習慣の確立に向けた生活指導を継続的に行いつつ、生活指導の意義を生徒自らが考えられる指導に努める。(生活指導)
- (7) 自立的な市民の育成を目指し、生徒の自治意識を醸成するために、生徒会活動を充実させていくとともに、主体的な学校行事へのかかわりを指導する。(生活指導)
- (8) 部活動の奨励(生活指導)  
部活動を積極的に奨励し、生徒の人格陶冶に資する。部活動を継続して卒業時まで続けることを通じて得られる達成感を多くの生徒に感得させる。
- (9) 進路指導の実現に向けた学習指導と進路指導の充実(学習指導・進路指導)  
計画的な進路指導を入学時早期から意図的に行い、生徒の希望進路を早めに具体化させる。そのため、特に関係の深い進路指導部と各学年が連携を図り、個々の生徒の情報を共有する。(進路指導)

- (10) 生徒の健康支援（保健指導・生活指導）  
生活を支える基本である健康に対する生徒の意識を一層高めるとともに、個に応じた指導に努める。
- (11) 専門的で高度な職業人としての全教職員の取組の継続（学校経営）  
総ての教職員が、専門的職業人であるという誇りと認識に立ち、より高度な知識と技術を身に付けていこうとする機運を高める。また、校内研修を意図的継続的に行うことにより、教員の指導力を高め合う。
- (12) 望ましい学習環境を保障する環境整備の充実（学校経営）  
生徒や教職員の学びへの意欲をより高め、学校としてさらに望ましい学習環境を整備するための、施設改善に資する効果的な予算投下を行う。
- (13) 学校広報の活性化（学校経営）  
効果的な学校広報を継続的に工夫し、中学生やその保護者、地域住民等に受け入れられる学校を目指す。

### 3 今年度の取組目標と方策

- (1) 新型コロナウイルス感染症問題による混乱の正常化  
昨年度に引き続く学校の混乱は、これまで経験のない出来事への対応を迫られているとともに、今後の見通しがつかめないために、対応が場当たりのものである。混乱することは、致し方ないものとして受け止め、学校経営をなるべく平常時に近い状態に近づけることを目指して、全教職員で教育活動に邁進したい。
  - ア 生徒と教職員の健康維持を最優先に学校経営を行う。そのため、学校再開後も感染症問題の収束又は鎮静化の方向性が見えるまでは、全教職員及び全校生徒の健康確認を行い、授業時の教室使用と生徒座席の配置の工夫や定期的な換気を行う。
  - イ 臨時休業により遅れた授業の回復を優先的に計画する。そのために、夏季休業などの長期休業期間の授業実施も計画に盛り込む。
  - ウ 部活動については、授業や補習等を優先した後、可能な範囲で再開する。その際、活動の特性に十分配慮し、感染の危険が回避できない活動は行わない。
  - エ 学校行事については、既に延期となっている行事と、今後予定されている行事とを改めて見直し、計画変更を柔軟に行う。今年度の修学旅行は、国内旅行に変更し、実施を遅くするなど、計画の変更を行う。
  - オ 成績評定や単位の修得認定等については、現在が非常事態であることに鑑み、校内内規の一律的な運用を行うことなく、生徒の進路開発に最も相応しいと考えられる取扱いに努める。
- (2) 体系的で組織的なキャリア教育の計画  
新学習指導要領に基づく新しい教育課程において、本校の教育目標、学校経営計画並びにグランドデザインに基づく、体系的なキャリア教育のための教育課程を

まとめる。そのために、「キャリア教育推進委員会」を校務分掌に組織し、研究と検討を行う。

- ア 生き方・在り方を模索し、幸福な自己実現と社会の到来を求める人材の育成を目指した教育内容を具体化する。
- イ キャリア教育の推進のための研究に意欲的に取り組み、そのための予算も投下する。
- ウ 新たに検討するキャリア教育の内容は、各教科・科目の指導、ホームルーム活動、学校行事、生徒会活動などの特別活動や部活動などあらゆる教育活動と連動させる。

### (3) 進路指導の充実

進路実現を図ることができる学校を全員で目指し、そのための進路指導の工夫を図る。

- ア 大学進学希望者の進路実現に向けての具体的な指導を行う。特に、アドバンストクラスの教育課程について見直しを行い、他のクラスとの差別化を図り、生徒の期待に応える。
- イ 1年次生からの計画的意図的な進路指導を行い、進路希望を早めに具体化させるように指導するとともに、安易な進路変更に堕することがないように、担任と進路指導部の連携を強化する。
- ウ 大学進学希望者に対しては、進学方法の具体的な指導を遅くとも2年次までに決めさせて指導に取り組む。
- エ 専門学校の新しい情報を可能な限り生徒に提供し、学校選択と進学意欲の向上に資する。
- オ 教員の進路指導のための力量向上を目指し、生徒の模擬試験のデータなど、客観的資料に基づく計画的な研修を行う。

### (4) 学習習慣の定着と学力の向上

学習習慣の定着を図る指導を粘り強く、かつ、継続して行い、自律的学習習慣を身に付けさせる。また、基礎・基本の定着が不十分な生徒に対しては、積極的な支援を行う。

- ア 担任等による面接指導を計画的に繰り返し行い、学習意欲を喚起する。その際、定期考査や模擬試験の結果を効果的に生徒本人や保護者に還元することにより、目に見える形での指導に努める。
- イ スタディサプリなどのクラウドサービスを効果的に導入する。その方法については、個々の教職員の取組によることなく、学年や教科、分掌など組織的な取組により行う。
- ウ 来るべきBYOD (Bring Your Own Device) 導入に備えた校内環境の整備に着手する。
- エ 教科主任会議をより活性化して、生徒に課す課題の質や量などの在り方について

工夫を行う。

- オ アドバンストクラスや校内寺子屋事業の成果を、定期的に共通認識できる体制を整える。

#### (5) 自律的な精神を身に付ける生活指導の構築

遅刻指導や服装指導などをばらばらに行うことに終始せず、日常の様々な生活指導が自律的な精神を育成していることを、生徒にも伝えられる指導を考察し、実践したい。

- ア 遅刻する生徒を減少させる。特に、意識的に遅く登校する生徒を無くすように指導を粘り強く行う。

- イ 登校時の校門指導を通年にわたり継続する。

- ウ 部活動や学校行事などを通じて、学校の一員としての望ましい帰属意識を醸成する。

- エ スクール・カウンセラー、ユース・ソーシャルワーカー、専門医の派遣事業などの外部人材の知見を共有し、特に個別の指導を要する生徒への組織的な対応を図る。

- オ いじめは絶対に許さないという環境をつくるとともに、定期的な調査により、いじめを根絶する。万一、いじめを発見した場合は組織的に指導を行い、特定の教員に指導が偏らないようにする。

- カ 保健衛生に対する意識を育て、生徒自身から環境整備に努めようとする指導を効果的に行う。

#### (6) 部活動の推進

望ましいキャリアの育成の観点から、部活動を積極的に推進する。単に勝敗に拘泥することなく、部活動を継続することの意義や、部活動を通じて育まれる望ましい人間関係の構築、努力することの大切さと成就感・達成感を日常から指導する。

#### (7) 国際理解教育とキャリア教育

21世紀の中核を担う人材の育成という視点に立ち、キャリア教育の一環として国際理解教育を継続して実践する。

- ア 自ら考え、判断し、表現することのできる人材育成のための指導の在り方について、校内研修等を通じて研究する。

- イ オリンピック・パラリンピック教育の継続を行う。

- ウ 新型コロナウイルス感染症の影響により、海外修学旅行は行わないが、姉妹校との継続的な交流は引き続き行う。

#### (8) 施設・設備の整備

老朽化著しい学校施設の改善を継続して行う。

- ア 「環境整備委員会」を活用し、委員会の提言を自立経営予算に反映する。

- イ 危険な施設、破損等が目立つ施設などから優先的に改善するよう努める。

- ウ 校内美化は、生徒の活動も適切に取り込む。

(9) 学校経営

- ア 全教職員の指導力向上を図る。特に、若手教員の「教科指導力」「分掌実務力」「ホームルーム経営力」の向上を深めるための研究組織を新たに立ち上げ、組織的に若手教員の育成を行う。
- イ ライフ・ワーク・バランスの一層の推進に取り組む。そのために、職員会議及び企画調整会議は、原則1時間以内とする。また、残業時間を減少させ、1か月あたり残業45時間を超過する職員については、その原因を具体的に究明し、改善を行う。

(10) 効果的な広報活動

- ア 昨年度運用を開始したツイッターの機能をさらに充実させる。
- イ 中学校への継続的な働きかけを行い、全教職員が、担当する中学校を具体的に分担する。
- ウ 新たな合同説明会への参加を行う。
- エ 学校ホームページの効果的な改善を行う。

4 重点目標と方策（数値目標）

- 卒業学年における進路決定者率 80%以上
- 平常時における授業以外の自主学習習慣化率 60%以上
- 中途退学者数 10名以内
- 年間遅刻者数累計 6650名以内
- 学校ホームページのアクセス数 10万件以上
- 学校説明会等における中学生・保護者の来校者数 2500名以上
- 入学者選抜応募倍率 学力に基づく選抜 1.00倍以上